

板橋区のあいキッズの現状と課題について

令和3年度第2回障がい児部会で、委員より質問があった、板橋区のあいキッズの現状と其中で抱える課題について、各担当部署より内容を整理し、それぞれの課題等をまとめたので報告する。

1. 支援員の加配

保護者が就労等により放課後家庭にいない児童で、かつ、①特別な支援を保護者が希望する場合、または、②あいキッズの円滑な事業運営を図るため、特別な配慮をあいキッズが希望する場合に審査・決定し、少人数による個別支援を行うための支援員を加配する。

	要支援児	要配慮児
対象児童	あいキッズを利用する時間に、保護者の就労等により家庭において適切な保護を受けることができない児童。 (区分：きらきらタイム・さんさんタイムオレンジ)	あいキッズを利用する時間に、保護者の就労等により家庭において適切な保護を受けることができない児童。 (区分：きらきらタイム・さんさんタイムオレンジ)
申請者	保護者	あいキッズ
申請方法	保護者が支援希望書を作成し、あいキッズに提出。あいキッズで申請書を作成し、支援希望書とあわせて区に提出。	あいキッズが申請書を作成し、区に提出。
対象要件	下記①～⑤のいずれかに該当 ①特別支援学校に通学する児童 ②区立小学校の特別支援学級に通学する児童 ③区立小学校の特別支援教室に通級する児童 ④身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳を有する児童 ⑤その他、特別な支援が必要と認められた児童	下記①②のいずれにも該当 ①要支援決定を受けていない児童 ②特別な配慮が必要と認められた児童
審査方法	上記対象要件の①～④については書類審査で、⑤に該当する場合は、認定委員会にて審査	審査委員会にて審査
職員の加配	原則、要支援児3名に対し、支援員1名。 ただし、支援の必要性により加配人数の変更可。	原則、要配慮児6名に対し、支援員1名。 ただし、配慮の必要性により加配人数の変更可。
配置職員	放課後児童支援員（非常勤）	放課後児童支援員（非常勤）
登録人数（8月1日時点）	137人（内、加配人数変更している児童9人）	6人（内、加配人数変更している児童1人）

2. 要支援児巡回指導

目的	専門知識経験を有する者によるあいキッズへの巡回指導を行い、支援等が必要な児童の受入れ環境や、あいキッズ受託法人職員に必要な資質の向上につながる機会を提供する。
対象者	要支援児・要配慮児として認定された児童等。
内容	児童に関する事前調査票をあいキッズで作成し、その資料をもとに児童の様子を専門員が観察。1回の巡回で最大3名の児童を観察。観察後は、専門員・あいキッズ・区とで今後の児童対応について協議。後日、専門員が報告書を作成し、その報告書をあいキッズへ共有。巡回を受けての報告書をあいキッズでも作成。

3. 要支援会議

あいキッズ受託法人職員における要支援児対応力向上のため、専門員による研修を年に1～2回実施。

開催日	内容	講師
令和3年12月14日	「アンガーマネージメント」～コロナ禍において子どもの感情コントロールの手助けをするために私たち支援員が必要なこと～	心身障害児総合医療療育センター 臨床心理士 三間 直子

4. 支援員の加配に対する現状と課題

- 保護者が就労等をしておらず、家庭において適切な保護を受けることができる児童については、現在の要支援制度の対象としていない。そのため、保護者が就労等をしていない児童で特別な支援等が必要な場合、あいキッズ（さんさんタイム一般の登録）で職員加配がない状態で児童対応することになる。また、児童の支援状況にもよるが、あいキッズ利用時に保護者に見守りなどの協力を依頼したり、様々な理由から保護者に協力を求められないケース等もあり、対応が複雑化している。
- 現在の制度では、職員の加配割合からして、要支援の方が要配慮よりも手厚く対応できる制度となっている。しかし、保護者の子どもの障がいの認識・受容が得られずに、あいキッズが要配慮の申請をするというケースも増えてきている。
- 配置される職員は委託先の法人で手配することになるが、放課後児童支援員の資格を取得するためには、数年間の勤務経験等と認定資格研修の受講が必須になり、有資格者の職員確保が難しい場合がある。

5. 今後の検討事項

- 特別な支援等を必要とする児童の重度化や多様化を背景とした支援の質の向上（巡回指導や研修を含む）